

令和3（2021）年さけます来遊状況（第5報:12/31 現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 全国の12月末時点での年齢別来遊数を推定すると、4年魚（2017年級）は前年および平年*1を下回り、1994年以降で3番目に少ない
- 5年魚（2016年級）は、前年を大きく上回るが、平年を大きく下回り、1994年以降で3番目に少ない
- 北海道の平均体重は3.19kg、本州の同体重は2.96kgで前年とほぼ同等

*1：平年とは、平成6（1994）～令和2（2020）年の平均値

・サケの年齢組成

（全国）

全国の主要な河川に回帰したサケの年齢査定をもとに、12月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、4年魚（2017年級）が全体の58%を占めて最も多く、5年魚（2016年級）及び3年魚（2018年級）がそれぞれ23%、18%となっています。4年魚は前年同期の73%、平年同期の37%となっており、1994年以降では3番目に少なくなっています。5年魚は前年同期の268%となっていますが、平年同期の24%となっており、1994年以降で3番目に少なくなっています。また、3年魚は前年同期の118%、平年同期の102%となっています（図1）。

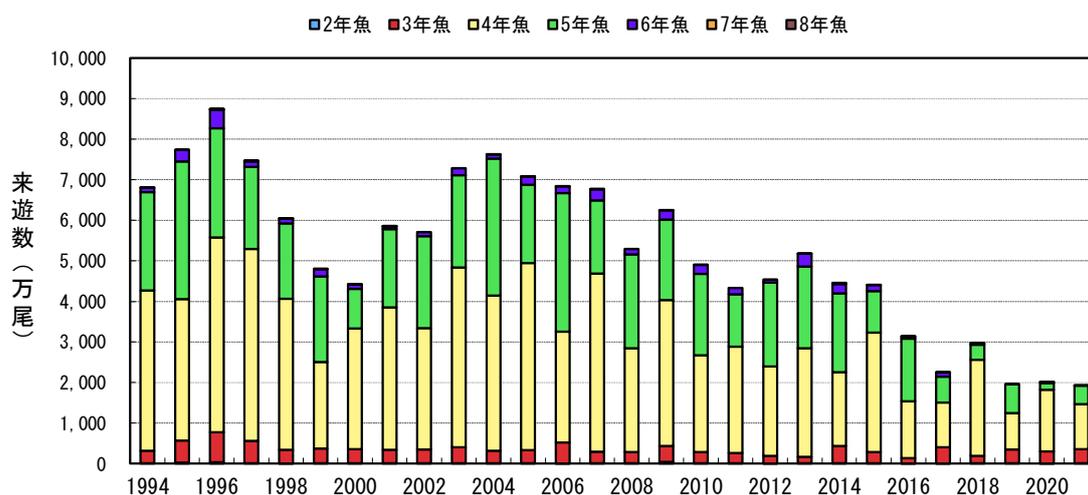


図1. 12月末時点のサケ年齢別来遊数（全国）.

(北海道太平洋)

北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚（2017年級）が全体の58%を占めて最も多く、次に3年魚（2018年級）が21%を占め、5年魚（2016年級）が20%と続いています。4年魚は前年同期の64%、平年同期の18%となっており、1994年以降では2番目に少なくなっています。5年魚は前年同期の107%、平年同期の10%となっており、1994年以降では2番目に少なくなっています。また、3年魚は前年同期の110%、平年同期の74%となっています（図2）。

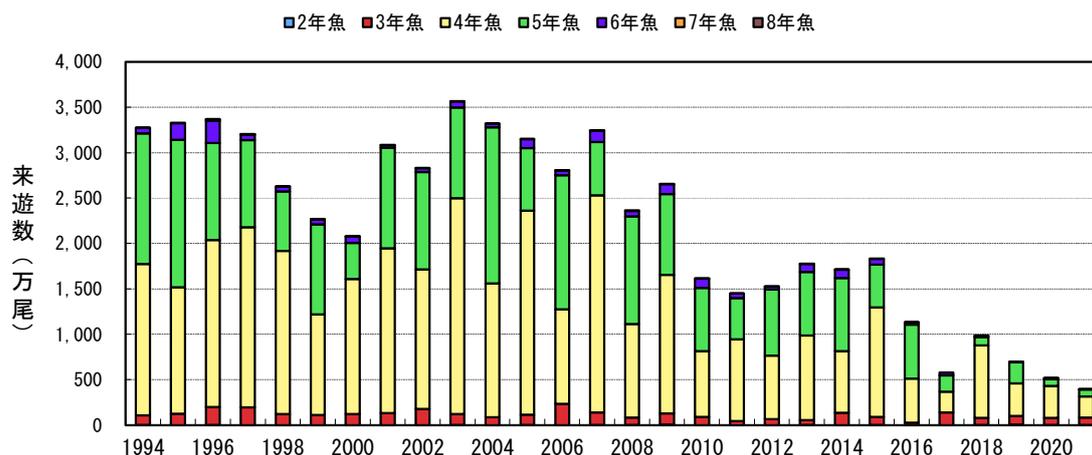


図2. 12月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

北海道太平洋側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2017年級の来遊数（2～4年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の23%となっています。また、5年魚である2016年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の25%となっています（図3）。

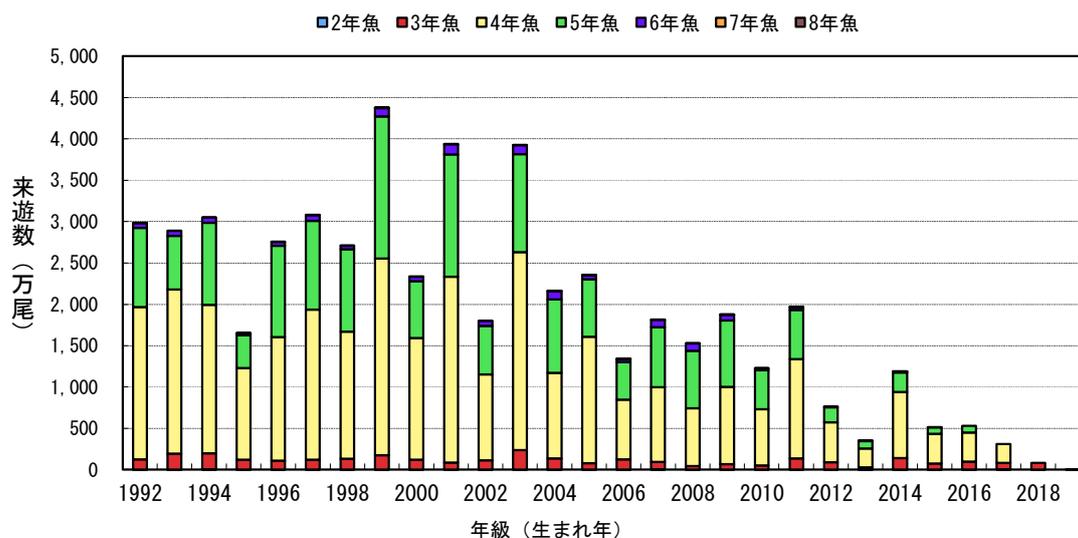


図3. 12月末時点のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）.

(北海道日本海)

北海道日本海側(オホーツク海区および日本海区)の年齢別の来遊数は、4年魚(2017年級)が全体の58%と最も多く、次に5年魚(2016年級)が24%を占め、3年魚(2018年級)が17%と続いています。4年魚は前年同期の82%、平年同期の80%となっています。5年魚は前年同期の415%となっていますが、平年同期の51%となっており、1994年以降で4番目に少ない状況です。また、3年魚は前年同期の140%、平年同期の232%となっています(図4)。

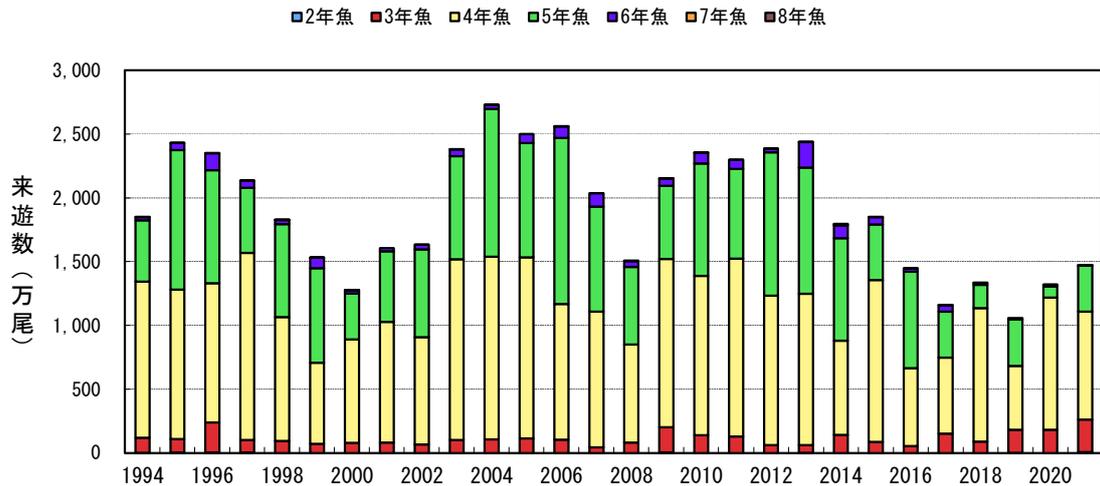


図4. 12月末時点のサケ年齢別来遊数(北海道日本海).

北海道日本海側の年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2017年級の来遊数(2~4年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の90%となっています。また、5年魚である2016年級の来遊数(2~5年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の86%となっています(図5)。

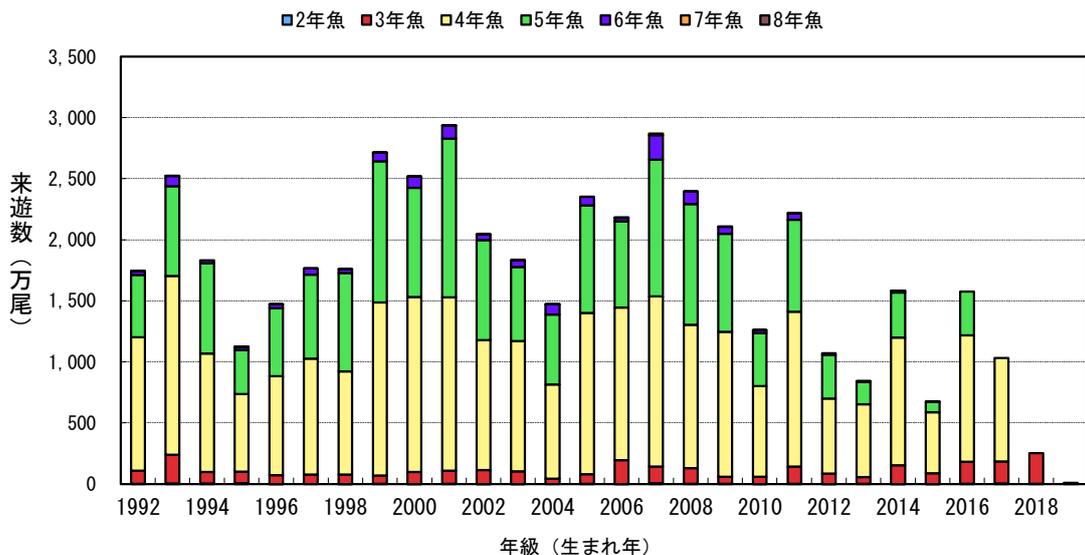


図5. 12月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(北海道日本海).

(本州太平洋)

本州太平洋側では、4年魚(2017年級)が全体の57%を占めて最も多く、次に3年魚(2018年級)が21%を占め、5年魚(2016年級)が20%と続いています。4年魚は前年同期の21%、平年同期の3%となっており、1994年以降では最も少なくなっています。5年魚は前年同期の136%、平年同期の2%となっており、1994年以降で2番目に少ない状況です。また、3年魚は前年同期の32%、平年同期の6%となっています(図6)。

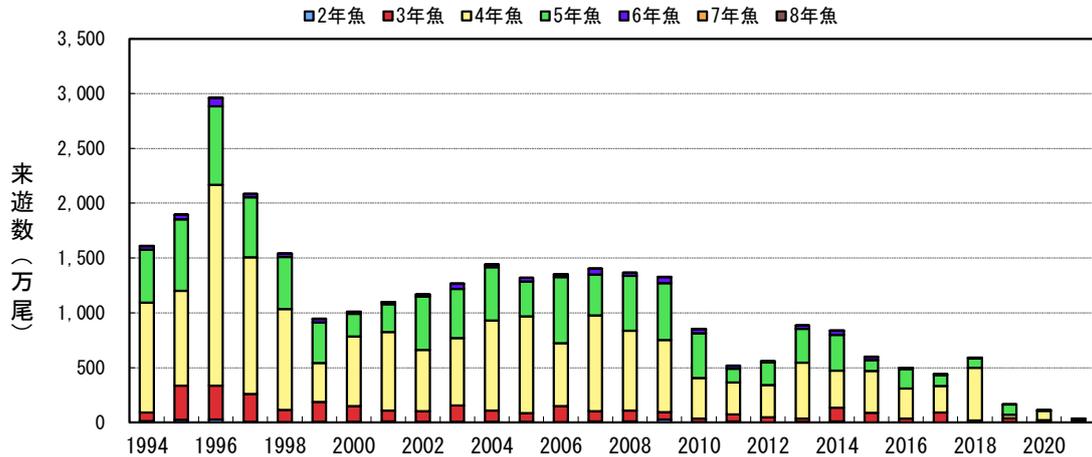


図6. 12月末時点のサケ年齢別来遊数(本州太平洋).

本州太平洋側の年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2017年級の来遊数(2~4年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の6%となっています。また、5年魚である2016年級の来遊数(2~5年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の12%となっています(図7)。

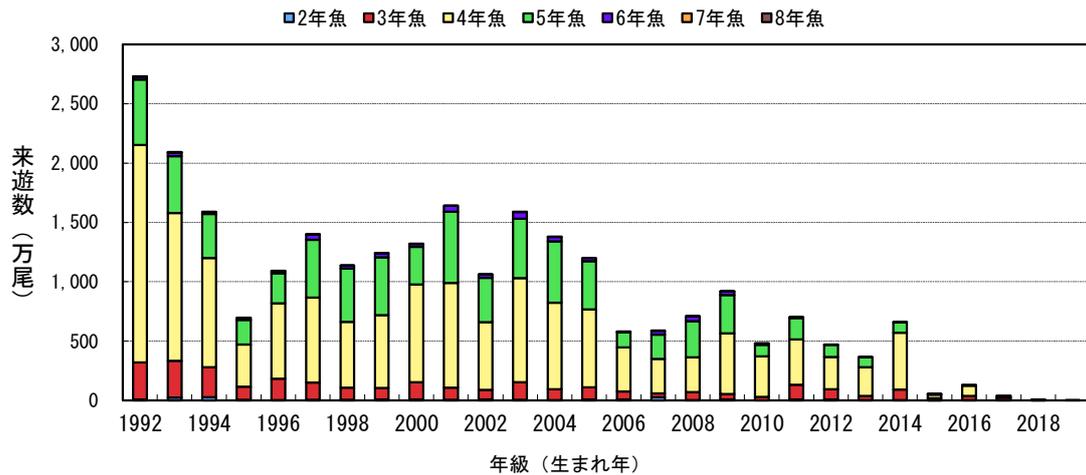


図7. 12月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(本州太平洋).

(本州日本海)

本州日本海側の年齢別の来遊数は、4年魚(2017年級)が全体の50%と最も多く、次に3年魚(2018年級)が34%を占め、5年魚(2016年級)が13%と続いています。4年魚は前年同期の37%、平年同期の32%となっており、1994年以降で2番目に少なくなっています。5年魚は前年同期の201%となっていますが、平年同期の26%となっており、1994年以降で2番目に少なくなっています。また、3年魚は前年同期の43%、平年同期の66%となっています。(図8)。

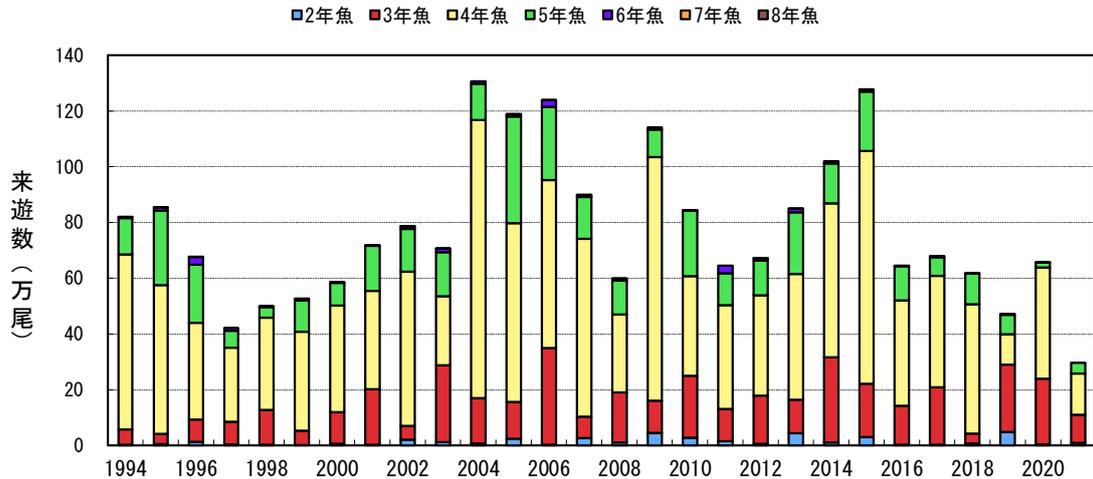


図8. 12月末時点のサケ年齢別来遊数(本州日本海).

本州日本海側の年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2017年級の来遊数(2~4年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の69%となっています。また、5年魚である2016年級の来遊数(2~5年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の89%となっています(図9)。

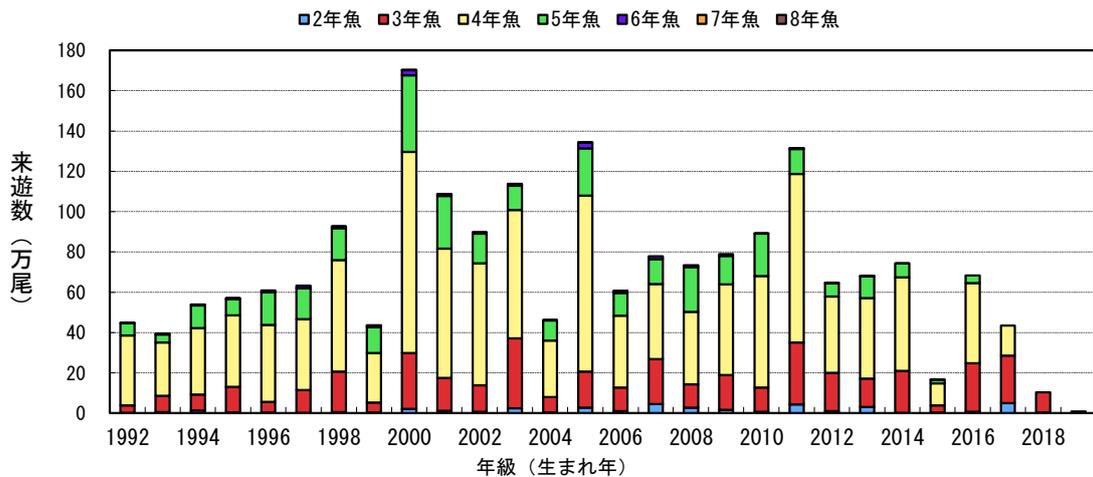


図9. 12月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(本州日本海).

・サケの体サイズ

(北海道)

北海道における12月末現在のサケ1尾当たりの平均体重(漁獲数と漁獲重量から算出)は3.19kgであり、前年同期の平均体重3.15kgとほぼ同等となっています(図10)。

また、北海道の主要河川に12月末までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は66.3cmであり、前年同期の平均尾叉長66.3cmと同等となっています(図11)。

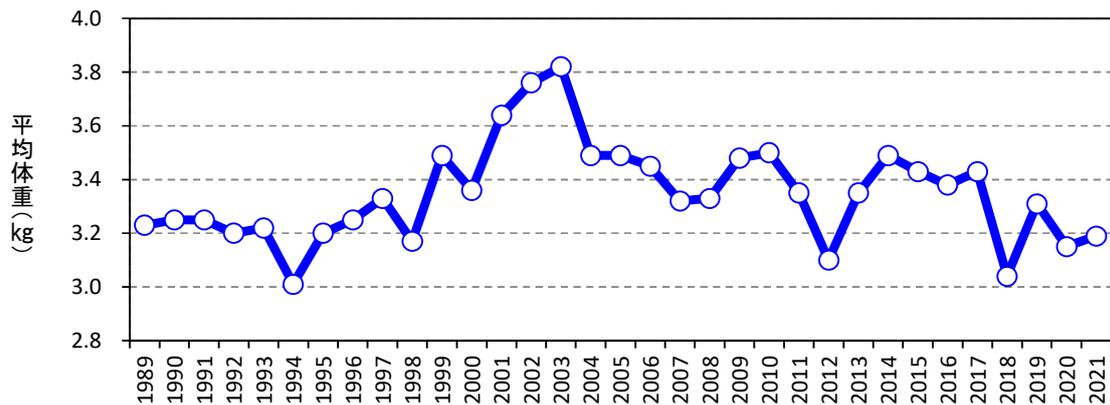


図10. 12月末時点のサケ平均体重(北海道)。

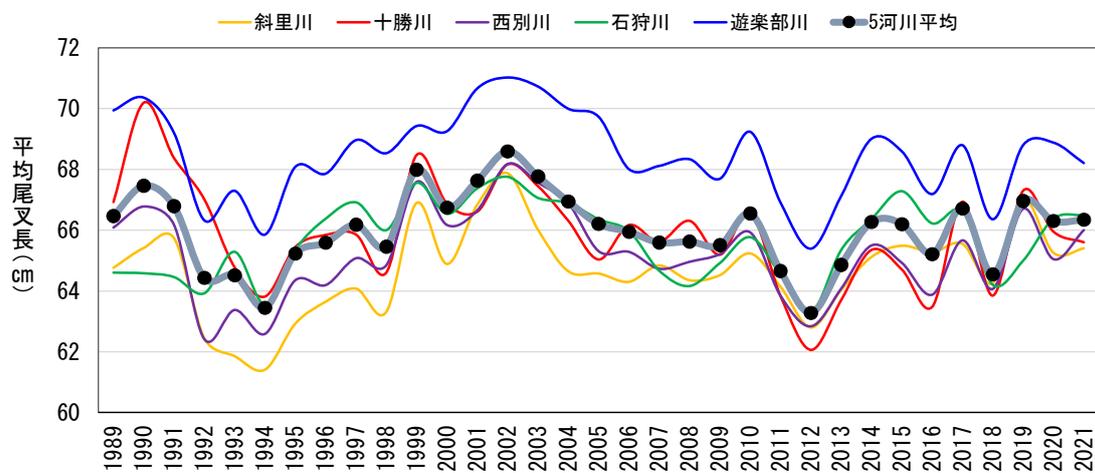


図11. 12月末時点の北海道の主要河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長。

(本州)

本州における12月末現在のサケ1尾当たりの平均体重(一部の県を除く、漁獲数と漁獲重量から算出)は2.96kgであり、前年同期の平均体重2.97kgとほぼ同等となっています(図12)。

また、本州太平洋側の津軽石川、本州日本海側の月光川(牛渡川)に12月末までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長はそれぞれ70.4cm、71.1cmであり、前年同期の平均尾叉長(2河川ともに70.0cm)と比べて、津軽石川ではほぼ同等、月光川では若干大きくなっています(図13)。

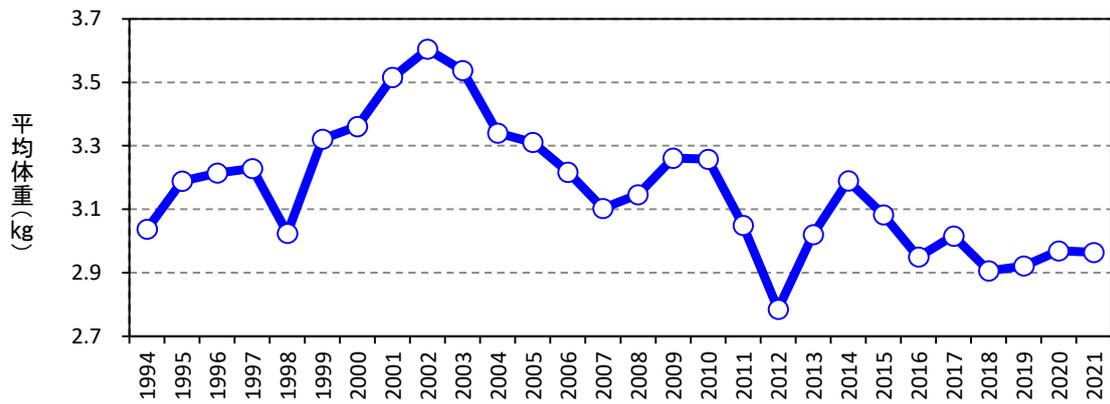


図12. 12月末時点のサケ平均体重(本州).

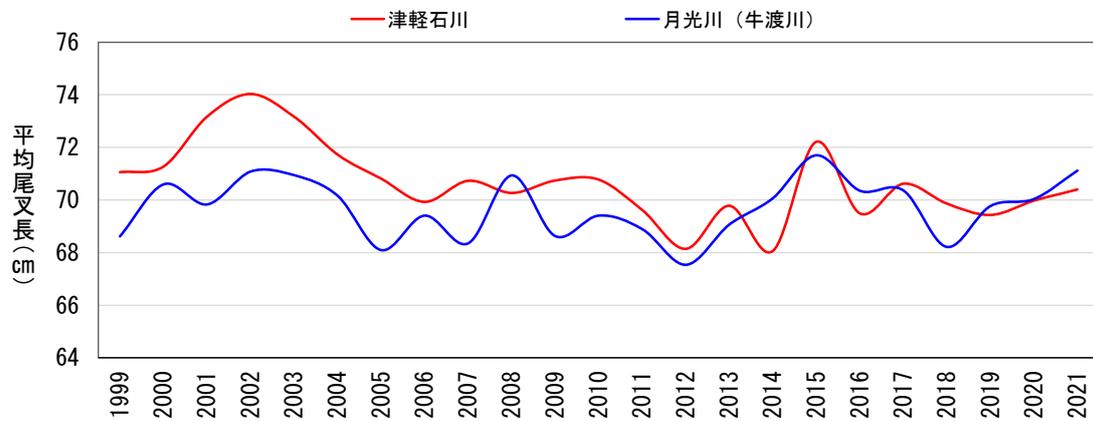


図13. 12月末時点の本州2河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長.